

研究課題の名称

大腿膝窩動脈病変を有する症候性閉塞性動脈硬化症患者に対する薬剤溶出性バルーンを用いた末梢血管内治療に関する多施設前向き研究

研究の目的及び意義

本研究の目的は、大腿膝窩動脈(FPA)の病変を有する症候性閉塞性動脈硬化症 (PAD)患者に対し、薬剤溶出性バルーン(DCB)を用いた血管内治療(EVT)の実臨床における12ヶ月の治療成績の実態を明らかにし、その関連因子を探索することである。

本研究を実施することにより、薬剤溶出性バルーンを用いた血管内治療成績およびその成績に関連する因子の詳細が検討され、本研究で得られた知見は、今後のPAD診療に大いに役立つものと考えられる。

研究対象者の選定方針

FPA病変を有する症候性PADに対して、DCBを用いた血管内治療を施行することが医学的に最適な医療行為(best practice)であると判断され、実際に当院当科でDCBを用いた血管内治療を行うことが計画されている症例

研究予定期間 承認日(2018年7月26日)から西暦2025年6月30日